

# 地域密着型サービス評価の自己評価票

(  部分は外部評価との共通評価項目です )

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>			
<b>1. 理念と共有</b>			
1	<p>○地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>	<p>認知症の方が住み慣れた地域で馴染みの関係の中で暮らす事の大切さ(安心した生活)を知り、“ゆったり・一緒に・楽しく・豊かに”と短い言葉の中に奥深い意味があることを、職員と一緒に考えながら理念をつくってある。</p>	
2	<p>○理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>	<p>ホームの見やすい所に理念を掲示し、朝の申し送り時には出勤者全員で声に出し復唱し仕事に就くようにしている。又、職員が統一したケアができるように、毎日理念に添った目標を決め、職員全員が心がけて取り組んでいる。</p>	
3	<p>○家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる</p>	<p>ご家族には入所時に理解してもらえるように説明したうえに、訪問時や“あすか便り”で折に触れ繰り返し伝えている。地域の方には運営推進会議の場で伝えたり、地域向けの“あすか便り”を発行し実践等を伝えるようにしている。</p>	
<b>2. 地域との支えあい</b>			
4	<p>○隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている</p>	<p>日常的に散歩や買い物、又畑へ出かけ近隣の人たちと挨拶を交わし、話をする機会を多く持ち顔馴染みの関係を築くように努めている。又、入居者の知り合いがお孫さんを連れて気軽に遊びに来てもらえるように、玄関をオープンにしたり、玄関先テラスで過ごす等工夫している。</p>	
5	<p>○地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている</p>	<p>最近では地域自体も活動が希薄であり参加する機会がないが、地域の夏・秋祭り等には積極的に参加している。また毎年保育所の敬老会にご招待していただき、子供達やそのご家族の方とも交流する機会がある。行くばかりでなく保育所の子供達が散歩途中に遊びに寄ってくれたりもしている。</p>	<p>○ 運営推進会議でヒントをいただき、地域の人との交流会としてホームの夏祭りに参加を呼びかけ計画中である。</p>

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	認知症サポーターとして職員の中に5人のキャラバンメイトが居て、地域の人々の小集団での勉強会を開いたり認知症ケアの啓発に努めている。又人材育成の貢献として労働安定センターの実習生の受け入れも積極的に行っている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は職員全員で取り組みケアの再確認や反省点を見出し質の向上に役立っている。外部評価の結果はカンファレンス時に全職員に報告し、改善策を考え、話し合い具体的な改善に取り組むよう努めている。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回運営推進会議を行い、地域の方の積極的な参加が得られている。ホームからの報告や相談には親身になって考えてくださり貴重な意見もいただき参考にさせてもらったりしているが、地域の中ではまだまだ認知症に対する偏見があることに気付かされ、認知症の理解に対する啓発に努めたいと思っている。	○	地域の方が認知症に対する偏見が強い事に悲しい気がするが、グループホームが率先して認知症の正しい理解をもらい、“いつかは自分の行く道”として考えてもらえるように地域で支えあえる関係作りに少しでも役に立てるようにしていきたい。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議への参加は市の事情で得られていないが、市のグループホーム担当職員とは報告や相談がしやすい関係にあり、必要に応じて連絡を取り合っている。	○	市の職員にグループホームの役割や考え方の理解が計り知れないので、これからもグループホームの考え方や実態をよく知ってもらえるように取り組んでいきたいと思う。
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	管理者は成年後見制度の研修に参加している。家族が必要に迫られ、今まで2人の人がその制度を利用している。		
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修等にはすすんで参加したり、職員間でもミーティング時に話し合い、虐待と気付かず言葉での虐待はないか？等もケアを振り返り検討して虐待防止に努めている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には重要事項説明を丁寧に行い、大事なところは時間をかけて詳しく説明し、納得してもらってから同意書にサインをもらっている。	
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	管理者や介護支援専門員が主になり、常に利用者との会話をもち利用者の言葉を大事に受け止め、思いを察する努力をし、利用者本位の生活が送れるように心がけている。又利用者から出た言葉は職員全員でその背景や原因を探り、改善に向けての策を検討するようにしている。	
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月“あすか便り”を個別に発行し、行事やホームでの暮らしぶりや取り組み等を知らせている。又面会時には最近の出来事について話し合う時間を設けたり、掲示板に利用者の生活ぶりを写真で紹介し見てもらっている。金銭管理については、個別にノートに記入し月末にまとめて報告している。	
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	できるだけ直接話してもらえぬ雰囲気作りに留意したうえで、玄関には意見箱を設置してある。外部にも相談窓口があることも説明しており、まだ苦情等は聞いた事はないが、意見等があった場合は早急に解決できるように努力し、サービス改善に努めるよう準備している。	
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日常的にコミュニケーションを図り、何でも言い合える雰囲気にある。職員の意見や要望を聞き、できるだけ運営に反映させている。	
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	利用者の個々に合わせた暮らしを実現させる為に、利用者の状態やペースに合わせて柔軟にローテーションを組んでいる。その例として、利用者の家庭生活の継続を考え、夜間の入浴にも対応できるように管理者は職員と相談しながら利用者の思いに応えられるように職員配置に努めている。	
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	単独経営なので異動はなく、基本的には認知症ケアに適した職員を雇うようにし、馴染みの関係を重要視しているので職員の入れ替えはできるだけしないように固定化している。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>			
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修案内の情報を積極的に集め、段階に応じて受講できるように提供している。研修報告はカンファレンス時に時間を設け発表してもらい、意見交換の場としている。また簡単に要点をまとめたり、資料をいつでも閲覧できるようにしてある。	
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県GH協会が提供する相互評価や事例検討会には積極的に参加し、独自では他のグループホームへ見学に行ったり交流する機会を多く設け、お互いのいい所を参考にしながら自分のホームにあったケアの構築に努めている。また職員同士の悩み等お互いに相談しあえる仲間作りをしている。	
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	運営者と管理者、職員は話しやすい関係にあり、ストレスを溜めないように悩み等相談に応じたり、親睦旅行に出かける等気分転換を図れる機会をつくっている。また休憩や休日もできるだけ取れるように配慮している。	
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	運営者の自宅で家族経営をしているし、看護師でもあるので毎日ホームに来て利用者の健康状態の把握をしている。その時に職員とも話をしたり、業務態度等を把握している。また職員の資格取得に向けての支援も積極的に行っている。	
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>			
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	事前に家族・可能な時は本人との面談で生活状態をできるだけ把握するよう努め、利用者によっては見学・通所等と一緒に過ごしてもらう時間を設け、職員や施設の雰囲気を受け入れてもらえるような関係作りに努めている。	
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	ご家族の困っていること、本人の状態等またはご家族が望んでいる事を聞き、ホーム側ではどういう対応ができるか方法を知らせ、ご家族が選択できるように決断を急がせず、柔軟に対処している。	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人やご家族の方が必要とするサービスを見極め、相談に応じて適切なアドバイスができるように努めている。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用までゆとりのある場合は、見学したうえで遊びに来てもらったり場の雰囲気に慣れてもらえるように工夫し、時間をかけて徐々に安心した利用へと移行している。		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者と職員は一家族であり、職員は「おばあちゃんの家に遊びに来ている」という感覚で過ごすように心がけている。利用者主体の生活の中でお互いが協働しながら支えあう関係作りに留意している。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	職員はご家族の情報や協力なしには本人を支えきれない事を知っており、ご家族と協力し合って支援する大切さを折に触れ伝えている。	○	ホーム側は“あすか便り”や面会時にご家族なしでは支えきれない面があることを伝えてはいるが、ご家族の思い(本心)がわからない所があるので、知る努力を続けていきたい。
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	本人の日頃の状態をこまめに伝え、本人の家族への思いや家族の本人への思いを受け止め、両者の関係がうまくいくように出来る範囲で支援している。面会時は、家族の絆を大切にしながら、必要な時には本人と家族の潤滑油になるよう支援している。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人の行き慣れた理美容院があれば職員が付き添ったり、ご家族の方に協力をお願いし支援している。利用者が行きたい所へ行ける支援をしている。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	ホールには円卓があり、みんなが顔を見合わせて会話や楽しく過ごせる場となっており、利用者の仲の善し悪しに配慮しながら、職員は調整役となり利用者同士の互助の関係が引き出せるように働きかけをしている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	サービス利用が終了された方も行事等の時には招待したり、遊びに来てもらったりドライブに誘ったりしてご家族を交えての継続的な付き合いができるように心がけている。また、季節の挨拶のはがき等で様子を伺うようにもしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員は常に利用者本位に考え、利用者の希望にできるだけ応えられるようにしている。利用者から出る言葉や態度、表情等からそれぞれの思いを察するよう心がけている。困難な場合もご家族から情報を得るようにし、把握に努めている。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	センター方式のアセスメントを実施しご家族に解る範囲で記入してもらっている。また入居後も本人や身内等の話から情報を得るように心がけている。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	利用者一人ひとりの生活リズムを把握し、自分のできることは自分でする事を基本におき、個々の全体像を把握するようにしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者本人の声を大切にするとは勿論、センター方式を活用(D-1・C-1-2,等)し職員全員で意見や気づきを出し合い、利用者がより良い暮らしができるように介護計画を作成している。ご家族には作成時や作成後意見を聞く機会を設け計画に反映させ同意をもらっている。		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	設定した期間での見直しは勿論、家族の要望や本人の状態が変化した場合等必要に応じて随時見直しを行っている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別のファイルを用意し、個々の生活習慣、身体的状況、日々の様子やエピソード等を記録し、また、大事なことはピックアップして申し送り事項に記入し全職員が把握できるように情報の共有化を徹底している。介護計画の見直しにも活用している。		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	医療連携体制を活かして本人やご家族の状況に応じて通院や送迎等必要な支援は柔軟に対応している。近隣の高齢者が血圧測定の要望がある場合等相談事については遠慮なく言ってもらえるようにしている。	○	認知症対応型通所介護、短期利用共同生活介護の受け入れ態勢はあり、また利用要望もあるが市での許可がおりないので今後も利用者の立場に立って行政に働きかけていきたい。
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	民生委員には運営推進会議に出席してもらっていて意見交換の場を設けている。また警察、消防等には随時電話や便りを通して連携をとっている。利用者が地域へ出かける回数も多く、スーパーや図書館とも顔なじみの関係作りに努めている。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	必要に応じて対応するよう考えてはいるが、地域のボランティアで間に合っている。本人の体調や希望に応じて地域の理容院の方が訪問してくださっている。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進会議に地域包括支援センターの職員が参加していただき、支援に関する情報交換や相談ができるような関係作りができてきている。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に家族から詳しく聞いており、本人の主治医を優先し継続できるようにしている。また、ホームの主治医もあり、訪問診療も受けられること等も話し、利用者や家族の希望に添うようにしている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>		
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>		
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>		
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>		
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>	○	<p>総合病院が主治医の場合、急変しても往診は受けられないので病院へ行く事になる。近い将来そうなる時を想定し、ご家族の意志の確認やホームの主治医の協力態勢についてより密に話し合っていきたい。また職員全員の意思確認も行いたい。</p>
49	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>		



項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	特にトイレ誘導時には本人を傷つけないように、目立たずさりげない言葉かけや対応に配慮している。職員の意識向上を図れるように職員同士注意しあう関係作りをしている。	
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	日常生活の中で、利用者自身が決定する場面を常に作るようにしている。利用者が「何でもいい」「わからん」と言っても気長く複数の選択肢を提案し自分で決めるよう方法を工夫している。意思表示が困難な方も最初から諦めて職員の勝手に決めてしまわないように配慮している。	
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ホームでは時間的配分はせず、一人ひとりに合わせた生活リズムで暮らせるように支援している。あくまでも利用者主体のスタイルを崩さないように職員間で申し合わせている。	
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	本人の好みを重視し自分で決めかねる人でも最低2種類の中からでも選んでもらえるようにしている。また、たまにはおしゃれを・・と化粧をする機会を設けたり、理美容は本人の馴染みの店に行くことも支援している。	
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	その日のメニューを相談して決めることから始まり、ホーム専用の畑もあり新鮮な野菜を収穫して献立に組み入れ、足りない食材を毎日買い物に出かけ調達してくる等、調理から片付けまで利用者が主体となるように支援している。また職員も利用者と一緒に同じ円卓を囲み、楽しく食事ができるように雰囲気作りを大切にしている。	
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	自宅で宅配をしていた乳製品等は継続してホームに配達してもらおうようにしている。職員は個々の嗜好物を把握しており、お茶の時間には本人の飲みたいものを選んでもらい好きな物を楽しめるように支援している。(お茶・ヤクルト・コーヒー等)	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	職員はおむつの使用は最後に！と認識しており、排泄チェックシートを活用し個々の排泄パターンを把握している。個々の排泄間隔に合わせてトイレ誘導トイレでの排泄を促している。失敗してしまった時も、極力本人が傷つかないように又周囲に気付かれないように配慮をしながら対処している。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者の希望に合わせ、基本的には毎日入浴できるようにしている。本人の生活習慣に合わせた時間帯(夜間等)で入れるように支援している。入浴拒否の激しい方も言葉かけや対応の工夫、職員のチームプレイでスムーズに入浴できるように支援している。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	利用者一人ひとりの睡眠パターンを記録し把握しており、夜間眠れない人には服薬に頼らず日中の活動の中で適度な疲れ、充実感を味わってもらえるように工夫している。又個々の体調や表情を考慮し昼間でも休息を取ってもらうよう配慮している。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	常に何がしたいか？を問いかけ希望に添えるようにしているが、希望の表出がなくても潜在する意識を引き出せるように働きかけている。家事一般での得意分野で力が発揮できるように適当な仕事をお願いし、一緒にする楽しさやまだできる自信がもてるように支援している。又随時ドライブやレクを利用者と一緒に相談しながら楽しめるようにしている。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	小遣い程度(無くなってもいいと思う額)の金銭管理を本人やホームで家族了解の下で行い、買い物時には自分で支払ってもらったり個々の力量に応じて支援している。又ホームの食材を買い物した場合は買い物、支払い、出納帳の記入も利用者に出来る範囲でしてもらっている。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	毎日買い物に出かけたり、本人の体調や希望に合わせて散歩やドライブに出かけている。又、日に一度は戸外の空気に触れるようにテラスのベンチで腰かけて歌を唄ったり、会話を楽しんだりする機会を設けている。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	日常的に利用者の「～がしたい」「行きたいなあ～」の言葉は聞き落とさないようにしており、その場所が遠くても可能な限り実現できるようにしている。「郷里である土柱へ行きたい」という声にご家族とも相談し職員の勤務調整を図り他の仲のよい利用者と一緒に実行出来た事もある。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	少なくとも年に1度年賀状は出す支援をしており、ご家族の方にも“あすか便り”を通して母の日や敬老の日に手紙やはがきを送ってもらえるように働きかけている。本人の希望に合わせて電話は自由に使えるようにしている。	
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	いつでも気軽に来てもらいやすい雰囲気作りを心がけ、他の利用者に気兼ねする事なく過ごしてもらえるような場所を提供している。又職員が入った方が良い場合を見極めながら対応している。近所に住んでいる、利用者をよく知る知人がお孫さんを連れて遊びに来てくださる事も多く歓迎している。	
<b>(4)安心と安全を支える支援</b>			
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束のないケアに取り組んでいるが、怪我や命を守るやむを得ない場合、例えばベッドから転落防止の為や本人の転落による不安解消においては柵を使用する事を、ご家族に相談し同意をいただいてからにしている。	
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	居室には鍵はなく、玄関も鍵はかけないことが習慣になっている。風通しの良い日は玄関を開放して自然の風を取り入れ過ぎしやすいように工夫している。職員は利用者の外出のくせや傾向をつかみ見守りや居場所の確認は常に連絡をするようにしている。	
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	日中は職員の一人は利用者の状態を把握できる場所に居て、職員間で声かけし連携を取り常に利用者の所在や行動を把握するように努めている。夜勤者は、物音や気配を感じる度確認に訪室したり、2時間毎には全室を訪室し状態を確認して安全面に十分配慮している。	
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	全ての物を取り除くのではなく利用者の状況に応じて見守ったり注意を促したり等ケースに応じた対応をしている。危険物の保管場所は決めてあり、毎日確認し必要に応じて施錠して安全を確保している。	
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	一人ひとりの状態から予想される危険を検討し事故を未然に防ぐように努めている。又、ヒヤリハットや事故報告書を記録しそれを基に反省点を明確にし再発防止に向けて話し合い、職員の共有認識を図っている。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	個々の状態や病歴等から危険性が想定される事を常に話し合っており、その時何をするか？を看護師に聞く等職員全員が危機感をもって勉強している。救急・応急手当等の研修にはすすんで参加している。		
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	昨年までは月に1回避難訓練を実施していたが今年からは年に4回避難訓練を計画して行っている。職員間では月1回は話し合いをしている。地域の協力体制は運営推進会議で協力を呼びかけ地域の消防団の人がホームの構造等を把握する為見学に来てくれたりしている。		
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	職員は起こり得るリスクについて把握しており、個々にご家族と話し合い、そのために行動を制約するのではなく、自由な暮らしの中にはリスクがあることを例をあげて説明し、理解を得られるように努めている。		
<b>(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	職員は個々の普段の状態を把握しており、少しでも変化が見られた場合はバイタルチェックを行い気付きを報告するようにしている。状況により看護師や主治医に相談したり受診するようにし早期発見に努めている。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	主治医や薬剤師から説明を受けた事は口頭や申し送りノートを活用し、全職員に伝わるようにしている。薬害(副作用等)にも配慮し、できるだけ薬を飲まなくてもいいように主治医と相談しながら支援している。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	服薬に頼らず排便を促すように野菜中心の食事を提供し十分な水分補給にも心がけ、適度な運動や散歩を取り入れる等自然排便ができるよう個々に応じた取り組みをしている。どうしても下剤を使わざるを得ない時は個々の状態に合わせた使用量と頻度となっている。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	口腔ケアの重要性を理解し、毎食後歯磨きに誘い、利用者の力に応じて職員が見守ったり介助したりと個々に合った援助方法を行っている。職員の中に歯科衛生士の経験がある者がいて必要に応じて口腔指導を行っている。少なくとも週1回は“ボリデントの日”を設け義歯の洗浄と歯ブラシの消毒を行っている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日の食事摂取量を記録し、水分摂取量も個々におおまかな把握をしている。水分摂取量には個人差があるので個別に工夫して不足しないように気を配っている。定期的に知り合いの管理栄養士にアドバイスをもらうようにしている。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症マニュアルを作成し、ホームで起こりやすい、又実際に社会で起こっている(ノロウイルス等)感染症についての勉強会や予防策について話し合ったり、手洗い、消毒等も配慮し実行している。毎年職員、利用者はインフルエンザ予防接種を受けるよう協力してもらっている。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	まな板やふきんは熱湯消毒や漂白等をし清潔を心がけている。台所の水回りの清潔、衛生を保つよう職員間で話し合い衛生管理に努めている。食材も新鮮で安全な物を使用する為できるだけ毎日買出しに出かけ買いだめをしないようにしている。又冷蔵庫・冷凍庫の食材の残りは毎日点検を行い安全性には十分配慮している。		
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>				
<b>(1)居心地のよい環境づくり</b>				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	入り口には手作りの案内板があり明るい雰囲気のある玄関になるよう利用者に生花をして飾ってもらったり玄関先には季節の花々を植えたプランターを置いたりしている。外気に触れたり花を眺めたり、近所の人立ち寄りお話しが出来るようにベンチを置いてある。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	生活の音(まな板をトントン、調理をしている匂い等)心地よい音楽、所々に置かれている季節の生花、鈴虫やめだか等の生き物の世話で五感に働きかけ、季節感を意識的に取り入れるようにしている。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	皆が集う円卓の他に椅子やソファー小さなテーブルを置き気の合う利用者同士でくつろげたり、一人で過ごしたりできるスペースをつくっている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者の馴染みの物を持ち込む利点について家族に説明し、理解して頂き協力を求めているが、協力が得られない人もその人の好みや必要な物を利用者と一緒に考え居心地が良くなるように工夫して環境設定をしている。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	常に換気に努め、できるだけ冷暖房に頼りすぎず自然のなかで利用者に合わせて温度調節をこまめに行っている。又不快臭が無いように用途に応じてアロマを利用している。		
<b>(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり</b>				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者の状態に合わせて手すりや浴室、トイレ、廊下等の居住環境が適しているかを見直し、利用者にも問いかけ安全の確保と自立した生活が送れるよう配慮している。物干しの高さは利用者が干したり取り入れたりする時には、利用者の作業しやすいように高さを変えている。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	「自分でできる事は自分でする」事を基本にどうしたら本人の力でやっていただけるのか？を常に追求し状態に合わせた環境づくりに努めている。混乱するようであれば改善策を探り、不安材料を取り除き自立して暮らせるように支援している。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	玄関先にはベンチを置き、花を眺めながら利用者が涼んだり、日向ぼっこをしたりしている。自宅、介護事業所共有の庭にはベンチや昔懐かしい“いっきゃく”を置き、座って話したりお茶やおやつを食べたり、職員と一緒に園芸を楽しんだり日常的に行っている。		

V. サービスの成果に関する項目			
項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
		○	③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

**【特に力を入れている点・アピールしたい点】**

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

- ・家庭的雰囲気の中利用者職員が馴染みの関係にあり、気兼ねなく利用者が本心をぶつけてくれる支援ができています
- ・職員は認知症ケアに熱心に取り組み、”生きる支援”をしようと、日々職員同士が切磋琢磨し利用者本位に支援している事
- ・利用者の笑顔が多く、喜怒哀楽の表出が豊かな事